

苗名小屋建設 50 周年記念行事（2018 年 10 月 6 日～10 月 8 日）に参加した。10 月 7 日には妙高山への記念山行が行なわれ、苗名小屋からの山頂ピストンに同行させて頂いた。当初計画は山頂から赤倉温泉に下る予定だったが、あいにく台風 25 号がドンピシャで日本海を通過中のため、前日に安全を考えピストン山行に変更された。当日は早朝 5 時にヘッドン着けて小屋を出発、台風一過でお山は晴天、参加者のテンションも自然に上がっているようだった。旧妙国国際スキー場ゲレンデ脇のつづら折れ林道を登っていくと、黒姫山の左手から御来光を拝むことができた。大谷ヒュッテ（避難小屋）まで、長い長い林道歩き（約 7.5km）であったが、妙高山中腹は紅葉のピークで錦秋トレイルを満喫できた。大谷ヒュッテからは妙高山名物の急登となり、約 2 時間で妙高南峰の最高地点（2,454m）に到着した。山頂は台風の影響のためガスガスの激風で、残念ながら展望を楽しむことはできなかったが、参加者 21 名全員が登頂を果たせたのは山行委員の配慮の賜物であったと思う。妙高南峰から北峰の三角点に移動し、昼食と恒例の記念撮影を済ますと、待っていたかのように小雨がパラパラと降ってきた。今回、特筆すべきは、現役 6 人も記念山行に参加したことだろう。ただし、OB とはスピードが違うので別行動とした。その結果、現役は OB より 1 時間遅く出発して 1 時間早く下山できたようだ。頼もしい。

下山後、苗名小屋にて記念懇親会が開催された。昼からの小雨が降り続いていたが、屋外でファイヤーを焚き、肩を組んで「みはるかす」を斉唱、会長と小屋委員長と現役の挨拶のあと、小屋恒例 BBQ をつまみに賑やかな酒宴が続いた。参加者約 40 人の 3 日間の食料計画と買出しや薪の用意等、事前準備をして頂いた小屋委員の皆様へ紙面を借りて感謝いたします。

苗名小屋を訪問するのは実に 33 年ぶりだった。記憶の彼方に消えかけていた苗名小屋は、OB 会の懸命な維持管理で外観は当時の姿のままに、屋根と土台と床板等が更新され、手造り水道と電気を備えた快適な空間へと進化していた。





